

「中国人民解放の歴史」学習(主催 行政共)の招請

時: 毎週木曜日午後6時-8時 於: 重慶市第三師長室 テキスト: 著者アーヴィング・マクマホン著「中國革命」(三省堂) 850円

全部の全ての行動者、学生、高校生、市民の皆さん。 「中国人民解放の歴史」の講義への圧倒的参加を訴えます。

現在、世界情勢はウエトナムー中国を中心として揺れ動いています。ウエトナムーイエニナムー人民民主主義的斗争は、戦後の圧倒的な経済的軍事的優位を背景に、世界史上比類なき注目と分配の権力を勝ち誇った帝国主義=アメリカ帝国主義を、ゆつたりとばか確実に世界反帝反殖の道へと追いつめ、米帝を中心とした戦後の世界反帝体制の一員をなすべく躍し、それのみならずその断ち切らんとする人民との上の上なる闘争だけ、限られた決起を訴えておる。

そして中国は、ナショナリズム、朝鮮人民の斗争に惜しみなく精神的・物質的支援を与えつつ、国連参戦、国民党追放、中華人民共和国設立等、積極外交の奮闘によるて米帝一二二〇政府を政治危機に追いつめる一方、日本帝国主義+佐藤政府をこりわけ深い動搖の淵に陥つてあります。

こうして今まで日本行動者人民の進むべき道は、ナショナリズムと人民の斗争の上なる潮流上、日本行動者人民の解放の任務は、二重性の困難な問題の上に立つて固く結合していなければなりません。

行批准と許可、 「拂曉」、 開運会、 粉碎し、 佐藤政府の「一つの中国」政策、 入管法、 国民再上程を粉碎し、 佐藤政府を全く日本の決起の渦中に打ち倒さーとしている。

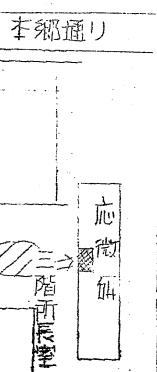
我が社は、「中国人民解放の歴史」の講義を、毎回先進的行動者、 学生、 高校生三十数名の参加の下で続けてきました。 戰後四半世紀を経て、 日本帝国主義が新たなアーヴィング・マクマホンとしている現下の状況は、 日本人民の「戦後」の虚構性（日本戦争での日本帝国主義の敗北）と戦争からの祝別、「平和と民主主義」を根底から間違返す作業、 それを中国革命勝利に引き寄せて、 総括すること（日本革命での日本帝国主義の敗北、 中国革命勝利と、 それに応えられた日本行動者人民の敗北として総括する）

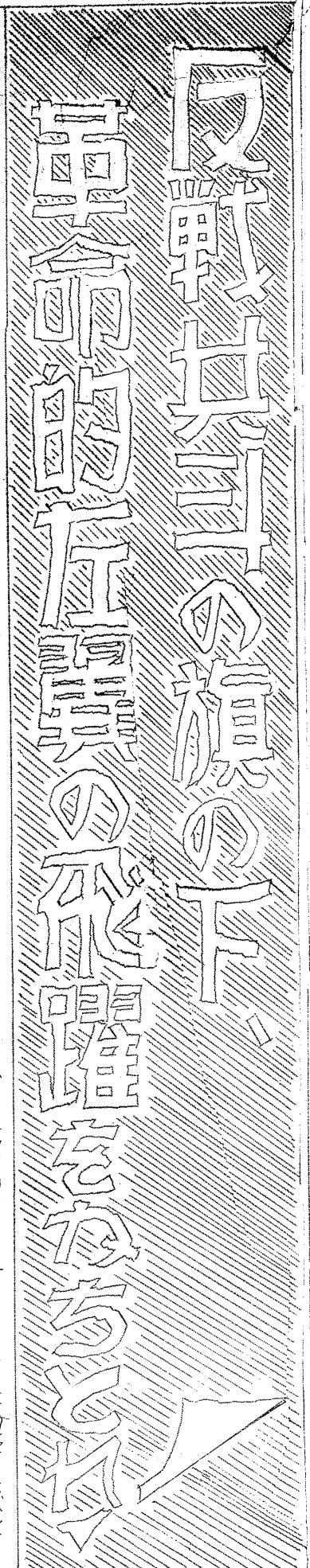
- (1) 時間順序
- (2) 知っている事は、すぐて言う。
わからぬことは、すぐ聞く。
- (3) 言つ者は、と存められまい。
- (4) 一日の活動を裏換し、共産主義的立場から活動態度を反省する。
- (5) 活動、活動態度を相互批判する。

活動家にとって、 会議は重要な活動の一環であり、 縱横におろそかにしてはならないものである。

会議は、 相互批判の場であり、 沢つて独創的になつたり、 なれあいに満つてはいけない。 批判すべき点は批判し、 反省すべき点は反省すべし、 大原則である。

我々は、「中国人民解放の歴史」の講義を單に講習一般におじとどめる、 ところが、 我々の日々の活動、 シーの基礎へと組み込み体得するための一作業としてこままである。





(1) 中緯返還協定粉碎、関連法案粉碎！

佐藤政府打倒へ進撃せよ。

11月18日、自民党は衆院特別委で強行採決という裏拵を行ひ、24日、衆院本会議において、民社、公明を主導して可決するという沖縄人民を弄する茶番劇に終始したのである。中國問題でこれに分裂した赤闘もようて結束し、民社、公用をもふくむこのマルジヨアジーの「大同団結」には、沖縄人民のヨリを一切圧殺し、返還協定を頑が何でも批准し、アジアへの侵略戦争の準備をすこしごうとすると、なみうみうらぬ「采惠」を示した。しかし、にもかかわらず、「予想された」強行採決を阻止せず、衆院での可決を承認しただけで、自民党との「されあい」を棄じた社会党・共産党は徹底して沖縄人民を帝國主義者に売り渡したのだ！ 社共の議会主義的正義を突破して決起する人民を率い佐藤政府を打倒し、日帝の侵略反革命を阻止する任務は今や、革命的左翼の双肩に、ななつていつ。

沖縄では、11月10日、沖縄人民は交通機関を止め、基地のゲートを封鎖し、全島数十万の決起をもつてゼネストを実行した。既成指導部の押え込みにもかかわらず、協定粉碎／基地撤去を唱ふ労働者学生は、弾圧せんとする機動隊を粉碎し、血祭りにあげた。

一方、本土においても、「批准阻止、佐藤政府打倒！」の声が全国にこだまし、革命的左翼に結集する労働者・学生は、11・10～11・24にわたり、首都・大阪など全国各地において、「佐藤政府の畜犬」＝機動隊を打ち破った。わずか反戦兵士は、11・10でネスト連帯戦争において、雄々しく首都への登場をなすりとり、当日に到る血刃どろのヨリを貫徹しめいたのである。

全人民の怒りは佐藤政府に集中している。中国の国連招請阻止の策動が破綻するやいのや、

みのみを画じた保利書簡の手渡し等の偽善的な「日中正常化運動や、1月佐藤一二クソノ会談一一クソンに中国との仲介を要請する」という一連の行動を突破して決起する人民を率い佐藤政府を打倒し、日帝の侵略反革命を阻止する任務はなうず、ヨリの労働者・学生に対して、全国から機動隊を首都に集め、千口り、千にうる殺傷、破防法適用、テモ・集会禁止、騒乱予備罪、火炎ビン取締り法、保安処分等の気運にじみた彈

圧をもつて延命策に必死となつていて。返還協定は批准された。沖縄戦争は終つた」とアルジニアマスコニは宣伝している。佐藤政府は更に沖縄返還協定関連法案——土地強奪法、開発三法案等を強引に可決せんとし、沖縄の侵略前線基地化を差々と押し進めつつあるのだ。

これを阻止するの日本士の労働者人民の最大の任務である。ヨリに始す、たばかりだ。國連法案を粉碎し、自衛隊の沖縄派兵を阻止をめざし、全民民的決起をもつて、植共の議会内とり引きを許さず、唯一、機動隊によく、てその余命を守らされてハ3佐藤政府を粉々に打ち碎こう！

(2) 沖縄三争の課題とは何か

沖縄人民は、戦前より、本土からの差別と抑圧を受け、戦争中は、日帝のアジアへの侵略戦争の最前線に立たれ、名数の島民は米軍の手でらず日本軍によって殺されたのである。それにもかかわらず、日帝が中國人民の抗日戦争、及び米帝との帝国主義間戦争に敗北するやいかや

軍、用は、日本が中國での強盗的略奪を許し、日本が敗北を内訳へ転化できなかつた。本土の抗敵者人民の闘いの敗北の結果として終結されたではない。たゞせんか、戦後米帝に立る辺境の軍事拠点化は、中国軍の敗軍の勝利のアジアへの拡大に恐怖した帝国主義の「戦後処理」の一環として、するわち、米帝は、米帝と日本との反革命同盟をもとに、「世界の暴兵」として居臨するマクナマラ戦略の基盤としてあつたのであり、それとの対決は、アジア人民の反帝闘争と結合し、帝国主義の侵略・反革命を日本心臓部における革命闘争をもって阻止する。とが勝利への不可欠の条件となる。

しかし、アジア人民は、帝国主義心臓部での革命の敗北にも々々わざず、朝鮮革命、さらにインドニシア革命戦争へと進撃を続け、巨なる反帝統一戦線を構築してやった。これによつて米帝のアジア支配体制は破綻へ落ち入り、スクナマラ戦略から「ワソン」、タムー、ドクトリーナへの戦換——日本との反革命同盟の再編成化を余儀なくされ、一方、日本はアジアの吸血鬼として、侵略の姦淫戦争の準備——辺境の侵略前線基盤化を絶対の任務としたのである。而年辺境返還は、そのよづな帝国主義の攻撃であり、米帝の侵略戦争を行ふものにあえいできた辺境人民は、これらに日本によって、彼らの貪欲な意図の犠牲にされようとしているのだ。

今こそ、本土人民のより大規模な決起を間ねられ、ころる時なのだ。本土人民の責務は戦前戦後の敗北を痛罰し、総括し、正しく教訓化し、日本が侵略反革命に抗し、「革命戦争」で応えていく事に他ならない。それが唯一、辺境人民との連帶の道であり、インドニシア革命と結合したアロレタリア国際主義の実現である。「本土復帰」を当然としか考へない、うる中核派の「奪還」論や、民族主義に対する小兒病的反抗、解放派諸君の「返還紛糾」論に、もはや用ひだい。これらは、辺境における権力問題へ階級および民族問題に無知の一大な誤りである。

これが、諸党派の混迷を乘りこみて、11月批辯止闘争の成果を踏みえ、辺境人民から土地収用法いや、開発法等の関連七法案を粉碎し、而年自衛隊派兵を一切の力を尽しきつて、辺境人民は、おとなしいトヨではな

い。戦後の祖国復帰運動の石波は米帝と眞向から解決するものであつたし、イードニナ革命戦争の前進に応え、米軍基地撤去の闘いはより熾烈に闘われてゐる。「ザ暴動、数波に」

カドウ空軍爆破、国軍飛来軍演習実力阻止、美里村毒ガス輸送阻止、11月には5月、11、10セネストを頂点とした大衆的決起、米軍基地への火炎び、瓦礫、「土地強奪法」に対する闘つて、「反戦地主」等々は、米帝及び日本の侵略・反革命の遂行に動搖を与える銳く対決している。

今こそ、本土人民のより大規模な決起を間ねられ、ころる時なのだ。本土人民の責務は戦前戦後の敗北を痛罰し、総括し、正しく教訓化し、日本が侵略反革命に抗し、「革命戦争」で応えていく事に他ならない。それが唯一、辺境人民との連帶の道であり、インドニシア革命と結合したアロレタリア国際主義の実現である。「本土復帰」を当然としか考へない、うる中核派の「奪還」論や、民族主義に対する小兒病的反抗、解放派諸君の「返還紛糾」論に、もはや用ひだい。これらは、辺境における権力問題へ階級および民族問題に無知の一大な誤りである。

3. 「指導の危機」長歌を唱へ、革命的左翼の立場

猛き取つて。

以上で述べてやったように、革命的左翼の任務は、は

かり知れぬほどの大きく重い。それにもかからず、政治を内ゲバ主義にあけくれ、アリバイ的政治闘争においていつて、革命的左翼の者は、「幼年期」の自然成長的思想に根づく左翼反帝派的性格を、いままで色濃く有し、日本階級闘争自体の危機であると言わねばならない。

アロレタリアーは、テメにて國家権力といつ暴力装置によつて資本主義的奴隸として、貧困、悲惨、墮落の中に押しつぶられており、彼らの前には、マルジヨ

アジーとの和解の道はなく、マルジヨアジーを力強く打ち倒すの路への道があるのみなのだ。この一点を忘れては、所に、観心主義、社会革命主義、スカラマティスク等を生み出す根柢があるのだ。この事が自開テイスム等を生み出す根柢である。この事が自開テイスム等を生み出す根柢である。とくに、アロレタリアーは、アロレタリアー指導の危機は現出する。とくに、國際共産主義運動の統括の視点にて、中国共产党のはたして、ソビエトの任務不正しく評価出来ず、その指導をスター、キミ的歪曲などといつのは、事實上、中國人民に敵対するものでしかない。朝鮮革命、イニニナ革命戦争は中国を大後方としたアジア人民の輝かしい勝利である。これと結合し、日本心臓部・革命

一一の混乱と混迷を打ち破り、革命的左翼の飛躍をみ

ちとうねばならない。革命的左翼の混乱と混迷を打破せんと斗争して、國志諸君、わが反戦共闘と共に、重大で困難な任務を負ふこと、げとつではなかつた。